

# 万引防止システムの 普及・促進に取り組む

## 協会が通常総会開く

日本万引防止システム協会(東京都新宿区、戸田秀雄会長、略称J.E.A.S.)は6月2日、東京都千代田区で「平成27年度通常総会を開いた。戸田会長は挨拶の中で「当協会は創設14年目を迎



戸田会長



金村新副会長

えた。万引犯罪の抑止・防止に取り組み、長年の啓蒙活動で万引防止システムの普及に務めてきた。しかし残念ながら未だ小売業の自己防衛手段に留まっているのが現状。今後はこれを業界全体に広げるため、防犯体制の一層の充実を図り、万引犯罪の根絶を図る取り組みを推進する。具体策として万引防止システムのさらなる普及促進、ソースタギング(製造・梱包段階で商品にICタグを取り付ける)の実現、防犯画像の効果的な利用法の確立、この3点に注力していきたい」と述べた。

議案審議の中で、ハード機器と人的対策が連携した万引防止システムの更なる満足度向上に向けて「新活動宣言」を起案し、理事会で審議・承認を経て総会で発表することが承認された。また役員改正が行われ、理事2人、監事1人を選出し、可決された。

総会後には、2つの記念講演が行われた。

警視庁犯罪被害者支援室「命の大切さを学ぶ教室」講師の桶田清順氏は、「万引対策は、働く者に対する安全配慮義務にかかわる重要な課題である」の演題で講演した。東京駅構内のコンビニ店長をしていた自身の長男・順彦氏(33)が、万引犯を呼び止め事務所へ同行する際にナイフで刺され絶命した事件について報

告。万引犯罪の防止とともに、従業員の安全を守ることの重要性を説いた。

市川ビル窃盗撲滅プロジェクトCD推進部長・長田泰文氏は「地域の安全安心のために大同団結・窃盗撲滅プロジェクトの驚くべき成果」と題して講演。駅ビル内の万引犯罪をなくし安心して買い物ができる環境を整備し、テナントの利益を守ることを目的とした同プロジェクトが成果をあげた。その経緯、活動内容、防犯カメラ・顔認証システムの効果などを報告した。新役員は次の通り。【新副会長】金村真一(チエックポイントシステムジャパン) 【新理事】佐藤圭三(キャトルプラン) 【新監事】山根久和(セフトHD)(敬称略) (瀬戸雅彦)